

## 所管事項調査に関する資料

| 目次                                          | ページ   |
|---------------------------------------------|-------|
| 1 第 11 回平和首長会議被爆 80 周年記念総会の開催について . . . . . | 2～10  |
| 2 長崎原爆資料館の大雨による影響について . . . . .             | 11～14 |

原爆被爆対策部

令和 7 年 9 月

# 1 第11回平和首長会議被爆80周年記念総会の開催について

(1) 会 期 令和7年8月7日(木)～10日(日) 4日間

(2) 会 場 出島メッセ長崎ほか

(3) 主 催 平和首長会議、長崎市

(4) テーマ 核兵器のない世界を目指して  
～地球市民として描く平和な未来～

(5) 協 力 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

(6) 後 援

外務省、国際連合大学、国際連合広報センター、公益財団法人日本国際連合協会、広島市、広島県、公益財団法人広島平和文化センター、国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所、長崎県、長崎大学、長崎市議会、一般社団法人長崎国際観光コンベンション協会、公益財団法人長崎平和推進協会、日本非核宣言自治体協議会、NHK長崎放送局、NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、NIB長崎国際テレビ、NCC長崎文化放送、株式会社長崎ケーブルメディア、株式会社エフエム長崎、長崎新聞社、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、日本経済新聞社長崎支局、共同通信社長崎支局、時事通信社長崎支局、核兵器廃絶長崎連絡協議会、核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会、一般財団法人長崎原爆被災者協議会、長崎県平和運動センター被爆者連絡協議会、長崎原爆遺族会、長崎県被爆者手帳友の会

(参考) 事業費(予算ベース)

市負担金 35,000千円

参加者負担金 4,900千円

合計 39,900千円

## (7) 主な会議等の詳細

### 8/8 基調講演



- 国連事務次長 兼 国連大学学長 チリツィ・マルワラ氏による講演。平和首長会議と国連が共有する使命をはじめ、紛争・気候変動・AIの軍事利用などといった現在の課題に対し、平和の概念がどのように進化しているかを考察し、平和な世界を築くための倫理的なリーダーシップなどを訴えられた。

- 講演後は、広島・長崎両市長とのパネルディスカッションも行い、平和、核兵器、技術（AI）、多国間主義などについて議論した。

### 8/8 被爆体験証言



- 日本被団協代表理事（長崎被災協副会長）の横山照子氏による被爆体験証言では、4歳で原爆を体験し、家族が被爆で長年苦しんだこと、現在の戦争状況に胸を痛め、核兵器廃絶への願いを込めて体験を語り継ぐことを話された。

### 8/8 会議 I（テーマ：核兵器のない世界の実現－都市の役割－）

- 核兵器使用のリスクが高まる中、都市レベルの取組による国際社会の持続的平和構築への貢献方法や核兵器のない世界の実現に向けた都市の役割について、パネルディスカッション形式で議論した。
- 主なパネリスト
- カシット・ピロム氏（平和首長会議スペシャルアドバイザー、元タイ王国外務大臣）
  - アレクサンダー・クメント氏（オーストリア外務省軍縮・軍備管理不拡散局長）
  - 樋川 和子氏（長崎大学教授・核兵器廃絶研究センター 副センター長）
- フロアからは、ICAN事務局長のメリッサ・パーク氏、核兵器をなくす日本キャンペーンの浅野氏など、NGO団体からの質疑等も行われた。





## 8/8 会議Ⅱ(テーマ:安全で活力のある都市の実現)

- ①環境問題、②保健医療・パンデミック、③人権・難民の3つの分科会を開催。専門家であるファシリテーターからの、各分野における現在の課題等についてのリードスピーチ、国内外都市の参加者による事例発表を行い、気候変動対応や感染症対策、多文化共生などの取組を共有・議論した。
- ファシリテーター
  - ①昔 宣希(長崎大学総合生産科学研究科准教授)
  - ②橋爪 真弘(東京大学大学院医学系研究科教授)
  - ③柏 富美子(国連難民高等弁務官事務所駐日代表)



## 8/9 会議Ⅲ(テーマ:平和文化の振興)

- 「平和教育」「若者の参画」「文化・芸術・スポーツ」「戦争体験の継承」「多様性・ジェンダー」の5つの分野にわかれグループワーク形式で開催。各分野では、国内外都市の参加者による事例発表のほか、広島や長崎の学生等もグループに入り、平和に向けた取組の共有・議論を行った。
- ファシリテーター  
林田 光弘( (一社) Peace Education Lab Nagasaki代表理事)  
ほか広島平和文化センター専門委員等 4人



## 8/8・9 展示ブース(中学生平和Englishリーダー)

- 市教育委員会が進めている、英語で被爆の実相や平和への思いを発信できる生徒を育成する事業「中学生平和Englishリーダー育成事業」と連携し、展示ブースの案内など総会参加者との交流を図った。



## 8/8・10 開・閉会式

- 開・閉会式では、地元の小中学校(橘中学校、桜町小学校、附属小学校)の協力により、ハンドベルの演奏や合唱などで総会のオープニングやフィナーレを彩った。



## (8) 出席者数等

### ア 加盟都市

|    | 国数    | 都市数    | 人数    | うち首長数 |
|----|-------|--------|-------|-------|
| 国内 | 1 か国  | 112 都市 | 183 人 | 65 人  |
| 海外 | 14 か国 | 27 都市  | 45 人  | 13 人  |
| 合計 | 15 か国 | 139 都市 | 228 人 | 78 人  |

イ 各国政府 1か国 1人

ウ 来賓・NGO等 59人

※ 一般傍聴人数は除く



### (参考)その他の参加者

●展示ブース案内 9人(中学生平和Englishリーダー)

●ボランティア等

・運営補助スタッフ 55人

・資料館見学 案内 6人(平和案内人)

・レセプション フロア通訳 10人

●その他

・開閉会式 ハンドベル/合唱 47人  
(長崎市内の小中学生)



## 【参考】プログラム

| 月 日     | 時 間         | 行 程 等                                                                                                                                                                                                                                         | 会 場                                                            |
|---------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 8月7日(木) | 13:30～15:30 | 理事会（平和首長会議役員都市のみ）                                                                                                                                                                                                                             | 出島メッセ長崎(101AB)                                                 |
|         | 16:00～16:30 | 献花                                                                                                                                                                                                                                            | 追悼平和祈念館                                                        |
|         | 16:30～17:15 | 原爆資料館・追悼平和祈念館 視察                                                                                                                                                                                                                              | 原爆資料館・追悼平和祈念館                                                  |
|         | 18:00～20:00 | 歓迎レセプション                                                                                                                                                                                                                                      | ホテルニュー長崎                                                       |
| 8月8日(金) | 9:30～10:00  | 開会式<br>-アトラクション（橘中学校ハンドベル部コスモス）<br>-開会挨拶 広島市長 松井 一實<br>-歓迎挨拶 長崎市長 鈴木 史朗<br>-来賓祝辞 長崎県知事 大石 賢吾                                                                                                                                                  | 出島メッセ長崎(CVH1,2)                                                |
|         | 10:00～11:00 | 基調講演<br>チリツィ・マルワラ（国際連合事務次長、国際連合大学学長）                                                                                                                                                                                                          |                                                                |
|         | 11:00～12:00 | 被爆体験証言<br>横山 照子（日本原水爆被害者団体協議会代表理事、長崎原爆被災者協議会副会長）                                                                                                                                                                                              |                                                                |
|         | 12:00～13:00 | 昼食                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                |
|         | 13:15～15:15 | 会議Ⅰ<br>テーマ：核兵器のない世界を目指して-都市の役割-<br>モデレーター：香川 剛廣（広島平和文化センター理事長）<br>パネリスト：<br>・カシット・ピロム（元タイ王国外務大臣、平和首長会議スペシャルアドバイザー）<br>・アレクサンダー・クメント（オーストリア外務省軍縮・軍備管理不拡散局長）<br>・樋川 和子（長崎大学核兵器廃絶研究センター 副センター長）<br>・高島 峻輔（芦屋市長）<br>・カーマイン・グリムショー（イギリス・マンチェスター市長） |                                                                |
|         | 15:30～17:30 | 会議Ⅱ<br>テーマ：安全で活力のある都市の実現<br>ファシリテーター：<br>①昔 宣希（長崎大学総合生産科学研究科准教授）<br>②橋爪 真弘（東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教授）<br>③柏 富美子（国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）駐日代表）                                                                                                         | 出島メッセ長崎<br>①環境問題(101A)<br>②保健医療・パンデミック(101B)<br>③人権・難民(CVH1,2) |

| 月 日      | 時 間         | 行 程 等                                                                                                                                                                                   | 会 場             |
|----------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 8月9日(土)  | 9:30～11:45  | 平和祈念式典 参列(式典 10:40～11:45)                                                                                                                                                               | 平和公園            |
|          | 12:30～13:30 | 昼食                                                                                                                                                                                      | 出島メッセ長崎(CVH1,2) |
|          | 13:45～16:00 | 会議Ⅲ<br>テーマ：平和文化の振興<br>ファシリテーター：<br>・林田 光弘（Peace Education Lab Nagasaki代表理事）<br>・香川 剛廣（広島平和文化センター理事長）<br>・相川 知子（広島平和文化センター専門委員）<br>・河野 勉（（広島平和文化センター専門委員）<br>・トーマス・ハイノツィ（広島平和文化センター専門委員） |                 |
|          | 16:30～18:00 | 第13回国内加盟都市会議総会<br>（国内加盟都市のみ）                                                                                                                                                            |                 |
|          | 18:30～20:00 | ナガサキアピール起草委員会（役員都市のみ）                                                                                                                                                                   |                 |
| 8月10日(日) | 9:30～10:20  | 会議Ⅳ<br>テーマ：全体総括・ナガサキアピール採択<br>-会議Ⅱ・Ⅲの内容報告<br>河野 勉（広島平和文化センター専門委員）<br>-ナガサキアピール採択                                                                                                        | 出島メッセ長崎(CVH1,2) |
|          | 11:00～11:30 | 閉会式<br>-アトラクション（桜町小学校・長崎大学教育学部附属小学校）<br>-閉会挨拶 長崎市長 鈴木 史朗<br>広島市長 松井 一寛                                                                                                                  |                 |
|          | 11:45～12:25 | 記者会見(役員都市のみ)                                                                                                                                                                            |                 |

## 【参考】ナガサキアピール全文

### ナガサキアピール 被爆80年を迎えて

私たち世界166か国・地域の8,509都市の代表は、2025年8月7日から10日にかけて、長崎市で開催された第11回平和首長会議被爆80周年記念総会に参加し、「核兵器のない世界の実現を目指して～地球市民として描く平和な未来～」をテーマに活発な議論を行った。

平和首長会議の平和を希求する源泉は、80年前に遡る。

1945年8月6日、人類史上初めて広島に原子爆弾が投下され、その3日後の8月9日、二発目が長崎の上空で炸裂した。原爆は、一瞬にして建物、住居をなぎ倒し、街は焦土と化し、その年の暮れまでに両市合わせて21万人を超える尊い命を容赦なく奪い去った。

辛うじて生き残った被爆者は、「世界中の誰にも、二度と同じ思いをさせてはならない」という強い決意を持って自らの被爆体験を世界各地で語り、核兵器廃絶を訴えてきた。その長年の献身的な努力が高く評価され、昨年末、被爆者の日本全国組織である日本被団協がノーベル平和賞を受賞した。このことは、被爆者の訴えこそが、ヒロシマ、ナガサキ以降に核兵器が使われなかったことに大きな役割を果たしてきたことの証であり、一人の力は小さくとも、力を合わせれば、そして諦めなければ、世界を動かす原動力になれることを、私たちに示してくれている。

しかしながら、被爆から80年が経過し、被爆者の平均年齢は86歳を超えており、核兵器廃絶に向け先頭に立って活動してきた被爆者のいない時代がすぐそこに迫っている。平和首長会議は、1982年の国連軍縮特別総会において、広島・長崎両市長が都市間の連帯を呼び掛けたことにより創設された機関である。被爆者の平和への願いを反映したこの呼び掛けにより、世界の都市が、恒久平和と核兵器や戦争のない世界の実現に向けて取り組むこととなった。今や、私たち平和首長会議は、平和を希求する世界最大の都市レベル、市民レベルの平和のネットワークに成長した。

現在、世界を取り巻く情勢、安全保障環境はかつてなく悪化している。依然として、この地球上には1万2千発を超える核兵器が存在し、また、核戦力の近代化や新型兵器の開発、中東やウクライナにおける紛争、対立の継続など、核兵器使用のリスクはこれまでに例がないほど高まっている。

また、核兵器を取り巻く国際情勢の危機的な状況に加え、気候変動、環境汚染などの環境問題や、貧困、飢餓、感染症の蔓延、難民や避難民の増加、人権抑圧など、一国のみでは解決できず、国際社会全体が協力して取り組むべき脅威、課題も深刻化している。人々が地球市民としての自覚を持ち、平和な未来の実現に向けて連帯するとともに、それぞれの都市において、地方の特性を活かして、様々な課題解決のために地道に努力していくことがますます重要となっている。



このような現在直面する課題を考慮し、2021年、平和首長会議は、「持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン(PXビジョン)」を策定し、A:核兵器のない世界の実現、B:安全で活力のある都市の実現、C:平和文化の振興、という3つの柱となる目標を掲げて様々な活動に取り組んできた。

今回の総会において、加盟都市は、これらの目標における「都市の役割」について議論するとともに、各地の様々な取組を共有し、加盟都市間の連携、連帯の強化の重要性を再確認することができた。また、次代を担う若者の育成、文化交流などの活動の強化のために、今後一層協力していくことを約束した。

総会での議論も踏まえ、平和首長会議は、2025年から2029年までの行動指針となる計画を加盟都市が共有し、行動するために次のキーワードと共に採択した。

「VOICE」― 私たちは、都市から平和への声を上げる。

「LINK」― 私たちは、平和のための様々な活動に関し連携し、協働する。

「PEACE」― 私たちは、平和文化を市民社会に深く根付かせていく。

そして、これらの取組を効果的、効率的に支えるため、

「RISE」― 組織基盤を更に整備し、都市ネットワークとして飛躍する。

これらのキーワードを掲げて、加盟都市間の連携強化と組織基盤の整備を進め、具体的な活動を展開していきたい。

平和は、人類共通の願いであり、目標である。私たちは、民族、文化、宗教、国などのあらゆる違いを越えてつながる地球市民として、誰一人として取り残さない社会を築くため、人間中心のアプローチにより、人間の尊厳を中核においた価値観を確立するための努力を継続していく。

そのためにも、世界各国の政府、指導者には平和のための以下の具体的行動を求めたい。

現在、第二次世界大戦後の多国間の政治、安全保障、経済が崩壊しかねない危機に直面し、世界各地で市民生活にも悪影響が及んでいる中、粘り強い対話、外交による平和実現のための努力を各国政府、指導者に求めたい。

核兵器が二度と使用されないためには、全ての締約国が核兵器不拡散条約(NPT)における核軍縮義務を果たすことが不可欠である。来年2026年には、NPT再検討会議が開催される予定であり、各国政府がそれぞれの義務の履行において具体的な成果をあげることを強く求めたい。

市民社会の大きな声、支援に押されて2021年に発効した核兵器禁止条約(TPNW)の第1回再検討会議が、来年開催される予定である。TPNWは、核兵器廃絶のための重要な一歩である。全ての国に対して同条約に署名・批准し、その目的の実現に向けて協力を強めるよう要請する。

平和首長会議としては、各国政府、国連、国連専門機関、市民団体と協力しながら、各都市における草の根の活動を通じて、平和を単なる理想ではなく現実として捉え、一つ一つ課題を解決していくことを目指す。それが世界最大の都市レベル、市民レベルの平和のネットワークとなった平和首長会議に期待される役割である。

今後、平和首長会議としては、国際的なプレゼンスを高め、平和の発信を強化していく。具体的には、核兵器なき世界を目指し、各国政府への働き掛けに加え、都市の役割を強調し、国境や民族を越えた都市レベル、市民レベルの平和への連帯の重要性を強く発信していくとともに、これまで被爆者が伝えてきた自身の体験、記憶、思いを風化させることなく次の世代に引き継ぎ、被爆の実相を伝える活動を世界で実施していく。

近年の地球規模の気候変動、温暖化は、熱帯性由来の感染症、農漁業への影響など市民生活を脅かすものとなっている。コロナウイルスによるパンデミックは世界中を震撼させ、各国、各地域の保健医療体制の課題を明らかにした。さらに、世界各地で続く紛争の影響を受け、現下の難民数は1億2千万人を超え、過去最多の数となっている。これら人間の尊厳を奪う地球規模の課題に対処するため、国連機関とも密接に協力しつつ、都市レベル、市民レベルの活動に関して連携、協力していく。

戦争なき世界と恒久平和の実現のためには、市民自身が、日常的な平和文化の活動、音楽、芸術、スポーツなどの活動を通じて平和への思いを強くしていくことが重要である。世界中の戦争の実相についての理解を深め、武力紛争による人々の苦しみを、市民、とりわけ若者が理解できるように、平和教育を推進していく。さらには、次代を担う若者と共に、核兵器の廃絶、平和な未来の創造に向け、地球市民として努力していく。

一人の個の力は小さい。しかし、平和を願う声を上げ、力を合わせることで、未来をつくる大きな力とすることができる。被爆80年に当たり、私たち平和首長会議の加盟都市は、これからも決して諦めることなく、心に希望の火を灯しながら、核兵器のない平和な世界の実現に向け、たゆむことなく行動を続けることを被爆地長崎にて誓う。

長崎を最後の被爆地に。

ノー・モア・ヒロシマ、ノー・モア・ナガサキ、ノー・モア・ウォー、ノー・モア・ヒバクシャ。

2025年8月10日

長崎にて

第11回平和首長会議被爆80周年記念総会

## 2 長崎原爆資料館の大雨による影響について

- (1) 発生日 令和7年8月11日(月・祝)
- (2) 場所 長崎原爆資料館 平野町7-8
- (3) 概要

【参考】令和7年8月7日～11日の雨量(単位:mm)

| 8/9 | 8/10 | 8/11 |
|-----|------|------|
| 66  | 6    | 225  |

8/11の時間雨量が特に多かった時間(単位:mm)

| AM1～2時 | AM5～6時 | AM11～12時 |
|--------|--------|----------|
| 31     | 49     | 47※      |

※11:20～11:40の  
20分間の雨量が24mm

- ア 午前11時20分頃からの大雨により雨水が館内に流れ込み、施設を臨時休館としたもの。  
(臨時休館:8月11日午後1時～12日午後1時 ※12～18日、一部見学を制限) ※雨水の流入箇所及び状況については次ページ参照。
- イ 展示室の上階から漏れた雨水の水滴があたり、被爆資料1点が雨水で濡れる被害があったもの。  
※被害資料:「焦げた板壁に残った木の葉の影」(縦146.5×幅120.5×奥行5cm)
  - 乾燥・クリーニング作業を実施。作業期間中は、展示室の一部の見学を制限。(急速に乾燥させると木材が縮むため、時間をかけて乾燥)
  - 8月18日夕刻、被爆資料に問題がないことを確認。8月19日(火)から制限解除。

【被害資料】

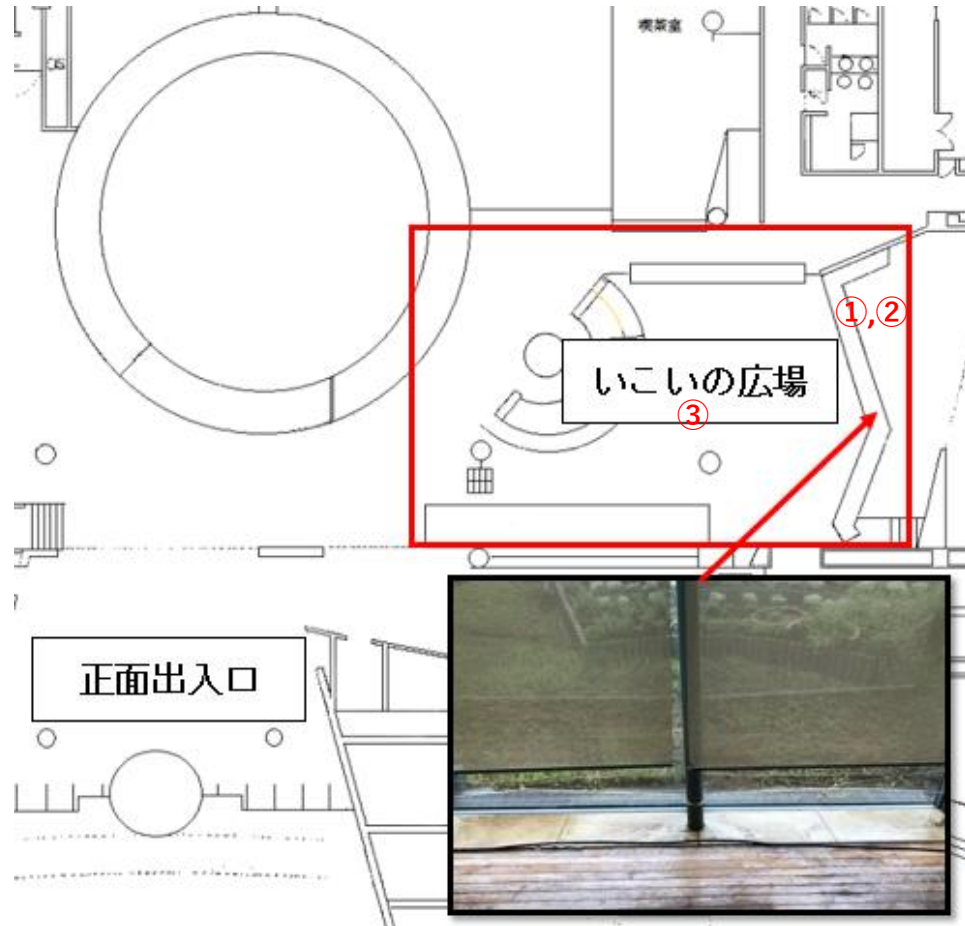


(左図)雨水に濡れた資料  
※赤で囲んだ部分が、濡れた箇所

(右図)乾燥・クリーニング作業を終えた  
資料

## 【雨水の流入箇所及び状況】

### 地下1階



①8月11日(月・祝)の11時20分頃からの急激な大雨により、連日の雨で緩んだ斜面の土砂が側溝に流れ込み、排水口を塞ぐ。(地下1階いこいの広場の外)



②側溝から雨水が溢れ、急激に水位が上がる。

→発見後、土砂の除去、土嚢積み上げ作業を速やかに実施。



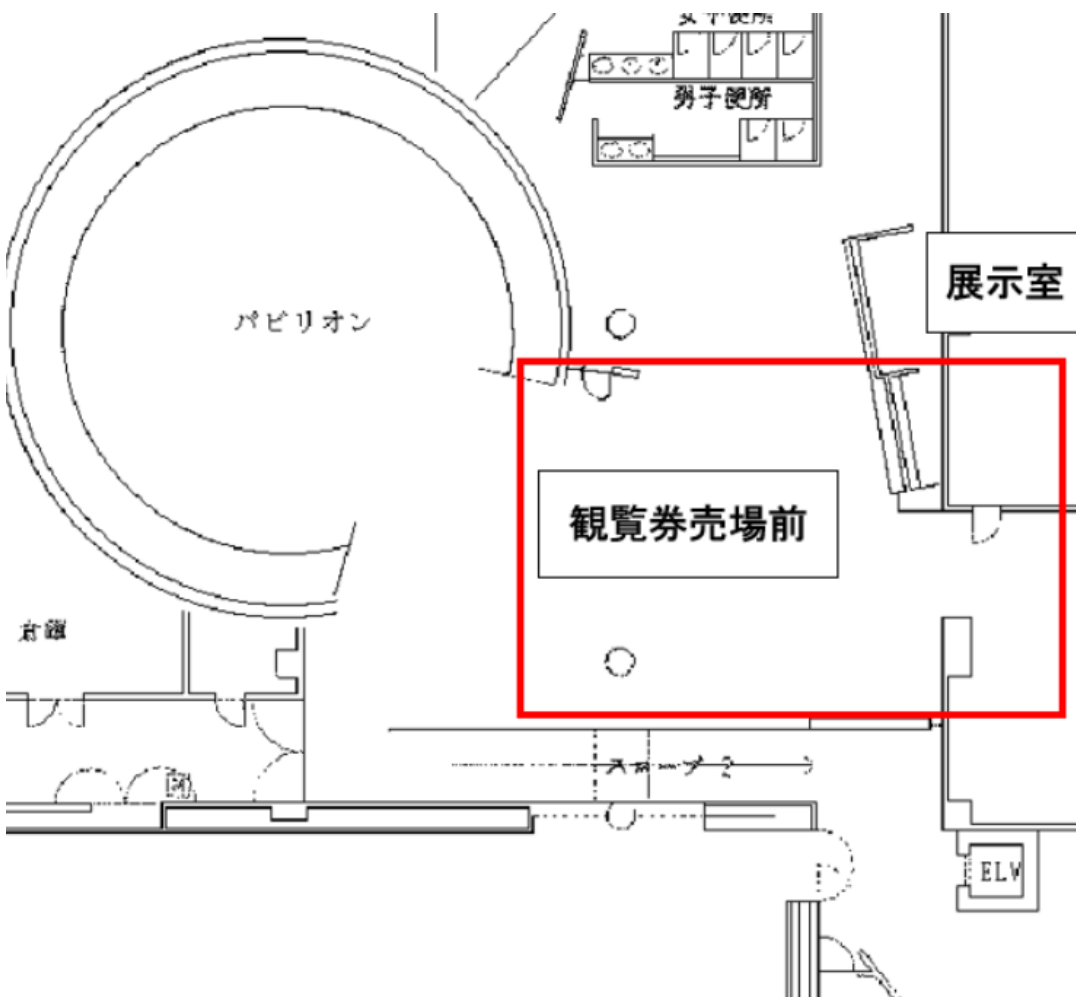
③窓枠や扉の隙間から雨水が流れ込み、いこいの広場に雨水が溜まる。

→土砂除去後、雨水の流入は止まる。溜まった雨水の除去作業実施。





## 地下2階



- ④いこいの広場の階下にある展示室入口付近に雨水が流れ込み、12:30頃から展示室への入場を制限。その後、復旧のため、午後1時から臨時休館。



- ⑤翌日8月12日(火)午後1時から開館。(展示室の一部の見学を制限。)
- ⑥8月19日(火)8時30分開館時から、すべての制限を解除。

## (4) 今後の対応

### ア 運用面の対策

- (ア) 指定管理者が毎朝実施している、各箇所の定期的な現地確認を更に強化する。(特に雨天時は今回の流入箇所を重点的に確認し、土砂が排水口に詰まらないよう対策を取る。)
- (イ) 土砂の流入を防ぐ土嚢などを設置する。
- (ウ) 被爆資料の保護のため、展示方法等の見直しの検討を行う。



### イ 設備面の対策

- (ア) いこいの広場の窓枠近辺のコーキング充填を行う。
- (イ) 次年度以降に行う予定である外壁改修工事に併せて、雨水流入を防ぐ方法の検討を行う。